

3月7日(火)

渴望する

聖書朗読 I ペテロ 2:1~8

主よ、あなたのことばは、とこしえから、天において定まっています。あなたの真実は世々に至ります。あなたが地を据えたので、地は堅く立っています。

詩篇 119:89~90

大人は変な食べ物を食べます。子どもの頃父親がビーツのピクルス、カブ、レバー、玉ねぎ、サワークラウト(ドイツのキャベツの漬物)、を食べるのを気持ち悪いと思ったものでした。一番嫌だったのは鶏の内臓です!今になっても父の味覚は変だと思っています。しかし、今では私自身が、自分の子どもから「パパは変なものを食べる」と言われています。

食べ物の味は習得するものです。本能的にその食べ物が自分に必要か美味しいか知っているわけではありません。ここでペテロは、栄養不足の生き方を捨て、その代わりに「純粋な、霊の乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」と勧めています。言い換えますと、もしキリストに似るように成長したいなら(一生かけて目指すものですが)、必要不可欠な良いものを感じ取る味覚を整える必要があります。

ペテロは 主に申命記8章3節のことを言っています。「人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きるということを、あなたに分からせるためであった。」神様の口から出るすべてのことばは良いものです。ナスにしてもキャベツにしても、美味しく味わい、その価値がわかるのは後からになるとしても、自分にとって良いものだとはっきり理解してください。そして、そういう食べ物は、成長した大人が食べるものなのです。

讃美歌 II80

祈り 父よ。必要不可欠なものと永遠を得ることが出来るように、私たちの食欲(欲求)を良いものを求める欲求へと変えてください。

デイビット・パウンズ
テキサス州シャローウォーター

3月8日(水)

普遍的尊敬

聖書朗読 I ペテロ 2:11~17

すべての人を敬いなさい。

I ペテロ 2:17

1980年代の後半はエイズが大きく取り上げられた時期でした。当時、私は病院でチャプレンとして働き始め研修を受けました。「普遍的予防策」と呼ばれていたものは、その頃は新しい考え方でした。簡単に申し上げますと、従来の「何人かの患者が伝染させるリスクがある」という考え方ではなく、「全ての患者が伝染させるリスクを持っている」という考え方です。私たち全員が患者と接するたびに手を洗わなければなりません。全ての患者に同等に扱われていると感じてもらうことが目標でした。

医療上の普遍的予防策は全ての人を守るものとして作られました。同じように、普遍的尊敬を持って全ての人に接することは、全ての人に祝福をもたらします。他の人を尊敬する心を持つことは、神様は仕事の種類とか肌の色とか財産とかでえこひいきすることはないのだということを思い出させてくれます。(ローマ2:11)「普遍的尊敬」は神様の考えに沿ったものです。全てのものの創造主は、ご自分の創造物を尊敬し尊重して下さいます。それを良しとされましたし、それはとても良いものだったのです。

感謝されて無反応の人はほとんどいません。尊敬されると、人の心と行動が変わります。良い心がけと行動で、えこひいきすることなく全ての人に接しましょう。

「人に対する傲慢な態度は、神への反抗だ。」

ナーマニデス

讃美歌 448

祈り 親愛なる神様。あなたを愛しています。あなた様がお受けになるべき尊敬をお見せしたいです。私たちが会おう人全てに尊敬の心をもって接することができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ノースリッチランドヒル
ロバート・P・ミュレン

3月9日（木）

本当の恵み

聖書朗読 I ペテロ 5 : 12~14

ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいきます。
ローマ 5 : 1~2

ある晩のことです。教会からの帰り道で娘がこう言いました。「お月様がついて来る！」私も子どもの頃 同じように思っていたのでクスッとしました。しばらく運転して 左に曲がりますと、月が見えなくなりました。娘は大層がっかりしました。すると、それまで黙っていた息子が 6歳児なりの精一杯の知恵で当たり前だという口調でこう言いました。「月は曲がれないんだよ。」

私も同じように「知恵」と呼んでいるもので物事を語って、神様をクスッとさせたことが何度もあると思います。

そういうふうにはしか見えない場合もあるのです。私の恵みの理解はこうでした。「神様は、限りなく恵み深く、惜しみなく与え、赦し、極悪人にも貧乏人にもとことん優しい。がっかりし失望している人に向き合ってください。」そう教わって育てられました。今でも変わらず、神様は私に恵みをくださっていると考えるのは、子どもじみて見えるかもしれせん。

イエス様と一緒に歩いた人であり、自分の失敗に大泣きしたペテロが「私はここに簡潔に書き送り、勧めをし、これが神の真の恵みであることをあかししました。この恵みの中にしっかりと立っていなさい。」（I ペテロ 5 : 12）と書いているのを読み、私の子ども時代の知恵は本当だった！と理解したのです。

讃美歌 II 167

祈り 恵み深い父なる神様。あなたからの恵みを嫌々受け取ってしまう時がある私たちを赦してください。私たちを救い、聖くして下さったあなた様の素晴らしい働きをほめたたえます。イエス様のお名前によって。アーメン。

デイビット・パウンズ
テキサス州 シャローウォーター

3月10日（金）

それは罠です！

聖書朗読 I ヨハネ 2 : 15~17

あなたがたの会った試練はみな人のしらないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられないように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。
I コリント 10 : 13

夕方散歩していましたら、モグラの罠を仕掛けている家がありました。そのケージの中には、モグラを誘き寄せるための美味しそうなリングが置いてありました。おとりのリングに誘き寄せられてケージに入っていくモグラのように、私たちの自己中心的な考えやプライドがサタンの罠のおとりになります。

私たちの欲望が罠に入るとそそのかすそうとしますが、神様は私たちが耐えられない試練にあわせることはありません。自分を喜ばせる欲望は、罪に繋がっていきます。私たちが罠にかかってしまっても、神様が脱出させてくださいます。サタンの罠にかからないように注意していますか。私たちが失敗してしまった時に神様が助けてくださると認識していますか。

今日、私たちが罪を犯すようにしている罠に気をつけましょう。サタンが罠に入るように騙すやり方を明らかにし、神様のみ言葉に寄り頼みましょう。もし私たちが罠にかかってしまい どうしようもなくなってしまった時は、神様に逃げ道を求めましょう。神様は助けてくださいます。

讃美歌 讃美歌 21 18

祈り 私たちの主よ。私たちのわがままを通すのではなくあなたのやり方をするようにさせてください。サタンが様々な方法で私たちに騙そうとしますので、目を開かせて認識することができますように。あなた様が備えてくださった逃げ道を見つける知恵をください。罪を犯してしまう時、あなたに赦しを乞うことができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

ジェームズ・ダイチェ
ペンシルバニア州 カーライル

3月11日(土)

どんな未来を想像しますか？

聖書朗読

自分の着物を洗って、いのちの木の實を食べる権利を与えられ、門を通って都に入れるようになる者は、幸いである。
黙示録 22 : 14

多くの終末論的な本や映画は、人間の未来に神は何もできないという様な描写をしています。神は架空のもので、力のないものとして描かれています。人間が自力で救わなければ全人類は滅びてしまうという世の終わりが想像されています。

黙示録でヨハネが想像した未来は、それとは違う、より良い未来です。あらゆる国の多くの人が、救いは神とその子羊によってもたらされると信じる未来を思い描きました。そういう人たちはもう死んでしまっている、今は神と小羊と一緒に暮らしていると想像しました。そういう人たちは、神様をあがめること、神様のルール、そこにおられる神を中心にして生きるのだと想像しました。

ヨハネは私たちの神様は生きておられる方であって、死んだ神ではないと知っていたのです！ヨハネは、「その衣を洗い、子羊の地で白くした」(黙示録7:14)者たちに未来があると知っていたのです。ヨハネは、自分の知恵や力を当てにしなくて救ってくださる神を信じるべきであると知っていたのです！

私たちには、未来はかなり暗く見えます。しかし、イエス様はご自分を愛する人たちの前に開ける違う見方を教えてくださいました。私たちは自分の力で未来をどうこうするしようとしないで大丈夫なのです。神様はそこに(そしてここにも)いてくださるのです。

讃美歌 II 161

祈り 私たちの父よ。あなた様をご自分の御座に座るときに、子羊が生きる水に導いていってください、より良い未来を考える様に助けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

ロン・ガズマン
テキサス州 サンアンジェロ

3月12日(日)

新しい始まり

聖書朗読 I テサロニケ 4 : 13~18

死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか。
I コリント 15 : 55

2022年が2023年になりました。なんと！月日は早く過ぎて行きます。まるで3歳の少女がお誕生日に3本のロウソクを吹き消して、「私の2歳はどこに行っちゃったの？」と聞いているようなものです。去年の新年の抱負は数ヶ月後にはもう達成不可能な気分になってしまいましたか。日々やらなければならぬことを考えると新年の希望はしぼんでしまいますか。カレンダーをめくるにつれ、変えていこうと思ったことや思い描いている希望がだんだん悲観的に見えて来るものです。

しかし、本日の聖書朗読箇所最後に、パウロはこう書いています。「これらのことばを持って互いに励まし合いなさい。」(I テサロニケ 4 : 18) 絶望に立ち向かう究極の対抗手段を伝授してくれています。彼はあらゆる年齢のあらゆる段階のクリスチャンたちに、確実に永遠に変わらないもの(真の新しい始まり)があるのだと思わせてくれています。イエス様は再び来られます！キリストによって死んだ人は、再び生きるのです。二度と死ぬことはないのです。たちまち一瞬のうちに変えられます。(I コリント 15 : 52)

現実に待ち望む希望を抱きつつ、2023年を生きましょう。

讃美歌 280

祈り 親愛なる神様。この新年に期待しています。なぜなら、あなたをその中に見つけることが出来るからです。私たちがいくべき道を進み、なすべきことをするように導いてください。実在しているあなたの再臨と永遠の命への希望で私たちを祝福してください。イエス様のお名前を通してお祈りいたします。アーメン。

スティーブンス・S・レムリー
共同編集者